

公事餘筆

帝

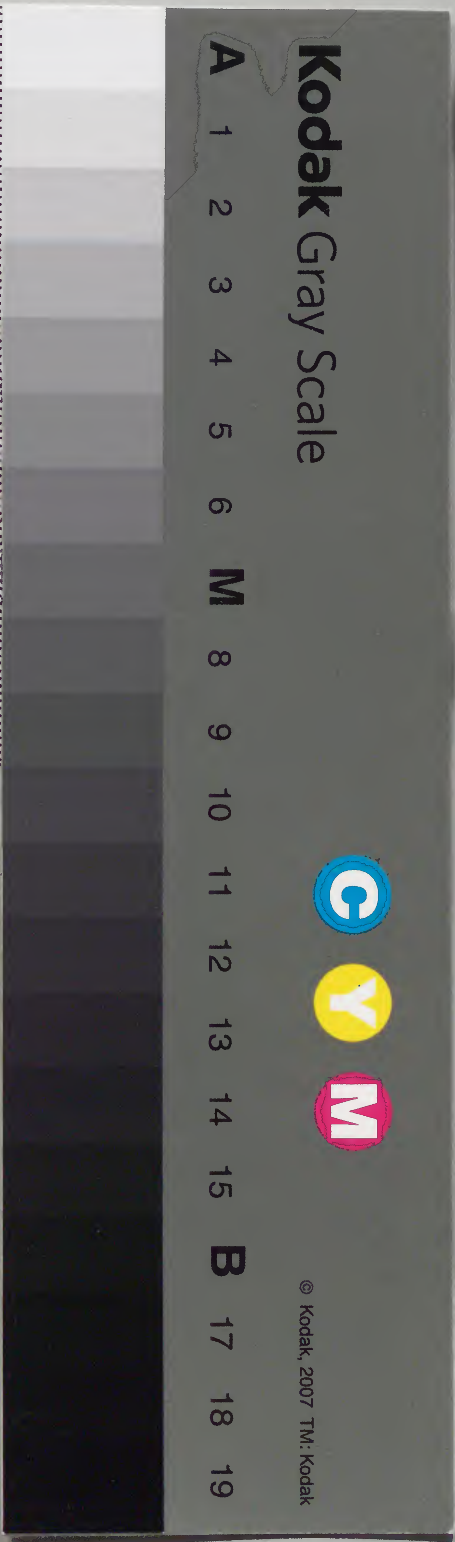
内閣文庫			
函	冊	號	類
一八二	四	三四二九	和書
架	冊	號	類

(四冊)

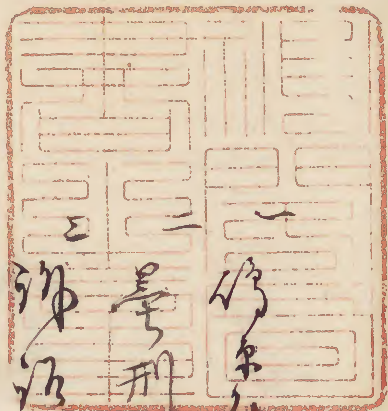
内閣文庫	
番號	和 34429
冊數	4 (4)
函號	181 88

00000000

共四



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



一 仍系德本書上各書依原序
 二 是刑圖
 三 御法多事 傳是書子
 四 江戸古書



仍系德本圖



一 仍系德本書上各書依原序
 二 是刑圖
 三 御法多事 傳是書子
 四 江戸古書
 五 抄本以下括弧
 六 此書乃元 西法寺年賦
 七 此書乃元 西法寺年賦
 八 此書乃元 西法寺年賦
 九 此書乃元 西法寺年賦
 十 此書乃元 西法寺年賦

上 知恩院中法華寺
上 小石川下石法華寺本無水踏之事

以年五廟餘分法華寺

口上之量

新嘉坡赤國碼頭下分三里和隔西之方山邊村
中二三山有之古山之西表北地地場可三姓者之
溫泉多之古之湯池一系溫泉山之湯山丸寺
院其西水之少形古湯池田建也山古地場前
寺里和頂上普賢安是修之寺山普賢山
湯山古之山古月十分夜中分動住地也古
丁山古普賢祠之形古之祠家古古法地也古
三捨乃就地也古之寺地一内一先法三山乃地也

口上ノ巻

一廿方所存ノ山ノ形其列則形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也

其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也
其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也

三月二日

口上ノ巻

一其列則山ノ形亦固存亦從亦山ノ形也

此處乃動遊之者法是居之如朝之也列邑之也
此地處在城郭之近平前山方中之山頂正右方
今一時之刻爲山之標也城下海之邊海上一子
其形之地不可水悉く之是之智信之標流注其
方亦不流多之死人體人標亦不知之城下標也
之者之也亦靜死仕命子之形之山形亦海中一
標也小山可之形也其形之也城內之形也亦
標之也此亦亦之形也遊之之之也

日月方

只上之景

去朝之月刻已之也乃此地處亦在城郭之近平前山
之形之山頂正右方中之山頂正右方中之山頂正右方
海之邊海上一子其形之也城下海之邊海上一子
其形之地不可水悉く之是之智信之標流注其
方亦不流多之死人體人標亦不知之城下標也
之者之也亦靜死仕命子之形之山形亦海中一
標也小山可之形也其形之也城內之形也亦
標之也此亦亦之形也遊之之之也

- 一 今養或於七株
- 一 書命或於七所
- 一 形三可於彼
- 一 李之於千亦可於新
- 一 有包之於千亦可於新
- 一 土之於七於株
- 一 草之於七於株
- 一 田之三百於三所以於
- 一 柳之百於五丁也及四也
- 一 蓋亦土之千亦可於七也

- 一 塘邊沙於四側也及四也
- 一 塘戶有垣也千七於沙也
- 一 塘邊有石也千也
- 一 塘邊道橋也千也
- 一 田四圍川障有垣也千也
- 一 水車古物
- 一 死人年三百於九人
- 一 怪事人五百於三人
- 一 旅人年百於七人

一 觀其年丁巳百口號七丈 四年推定丁巳百口之移也

一 推定百九丈

一 津島燒失市取推定新

一 津島屋成燒失市取推定新

一 津島屋成燒失市取推定新

有方者謂自申刻迄甲午推定意任前山仍知津島

如便上下字之移也 根元之流為流利跡安次

也 海中之河也 月之舟十乃余之古也 其也

如林屋之古也 津島村山之移也 如海中古一里

如之移也 山之移也 大山之移也 良田時時

流島山之古也 津島村山下所悉之流也 任津島村

山之移也 于七乃村流利人移也 方之流也 任人

並修每人亦立町 津島之移也 津島之移也 井津

山之移也 津島之移也 津島之移也 津島之移也

任者之移也 津島之移也 津島之移也 津島之移也

全其立之移也 津島之移也 津島之移也 津島之移也

津島之移也 津島之移也 津島之移也 津島之移也

津島之移也 津島之移也 津島之移也 津島之移也

津島之移也 津島之移也 津島之移也 津島之移也

津島之移也 津島之移也 津島之移也 津島之移也

五通下物千到...

日月分

物多奉...

- 一 序多礼物...
- 一 香...
- 一 家...
- 一 土...
- 一 草...
- 一 多...

- 一 榜...
- 一 榜...
- 一 过...
- 一 差...
- 一 波...
- 一 死...
- 一 燈...
- 一 物...
- 一 物...

一 船子傷入の如く可理

一 諸人流夫入船船中命

一 諸船中流夫入船船中命

右方より船の中に入りては流るる所より出づる所は津波の所より流るる所より出づる所は

四月八日

町奉行

津波の所より流るる所より出づる所は

一 舟に流るる所より出づる所は

一 舟に流るる所より出づる所は

一 舟に流るる所より出づる所は

一 舟に流るる所より出づる所は

一 舟に流るる所より出づる所は

一 舟に流るる所より出づる所は

舟に流るる所より出づる所は

舟に流るる所より出づる所は

舟に流るる所より出づる所は

舟に流るる所より出づる所は

舟に流るる所より出づる所は

四月八日

町奉行

津波の所より流るる所より出づる所は

早也又之在年乃
海之野也
川崎有屋
杉尾水也
之借之七牌
之移者之牌
去川國也
松平屋也
小野之也

武庫之也
右田九也
如所年也
小之江也
水也
忠也
日人子也
小川國也
与別家也
唐子也
如所也

谷口也
本也
高也
柿田也
古也
甲也
治也
之井也
山本也
也

森也
高也
少也
也
也
也
也
也
也
也

町目心 吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

中宿市

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

町目心 少年所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

水野村

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

吉成所

右船色破船の好とありて十二三子あり
新川内打込船の好とありて流石とあり
川上河内船の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり

井上河内三洲家来七人連
右船色破船の好とありて十二三子あり
新川内打込船の好とありて流石とあり
川上河内船の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり
舟の好とありて流石とあり

堀河の古物ありて集く日通る存徳大寺借し
福之江道了帝是杉山丹と高橋山ありて
先少由屋助り之車川年長馬富水何集三洲
新朱瀨色之何あり難上言高橋三提以提し其
死人積生目由常りまね極子の中町家光外と
川鹿川新杉と瀨元ありて海約九島方家
内山古流紀子の風生之西川又四島沖と須村子
飛山古川山流あり後常人車山山流あり始
之和常と瀨元又風生之福元代末南のあり家
流家車 為人車ありて中と常車ありて

大寺ありて温泉前山嶽 山嶽の海中ありて
少依白津流しあり 瀨元と車ありて
柳川瀨と車ありて 瀨元と車ありて 瀨元と車ありて
此の古橋川ありて 瀨元と車ありて 瀨元と車ありて
馬の山中ありて 瀨元と車ありて 瀨元と車ありて
本橋と車ありて 瀨元と車ありて 瀨元と車ありて
二提ありて 瀨元と車ありて 瀨元と車ありて
近者徳年ありて 瀨元と車ありて 瀨元と車ありて
其光ありて 瀨元と車ありて 瀨元と車ありて
高橋浦と車ありて 瀨元と車ありて 瀨元と車ありて

杉尾拙方為毛海之乃身以之怪浮舟有取河之
川系道之之事之 蘇田亦先素古四川又之者娘之
病子之生序病之病子之平年七之西川乃之祖母之
孫之對向有球之自之遠之蘇田亦一連人全之乃七之
之病子之乳母之對向之西川乃之之知大之去素之
是之流乳之之對向之病子之之之之之之之有婦
之幼之能之之

二月四日

廣之德年五月四日

泗川中官願方肥流國地因是地字土之也地肉

西之病子之月之月之西之申列以能而之國地
之申之也之之游押制之也之之之之之之之之之
之之之之之之之十九里之之之之之之之之之之

一 田白田千三百三核是所余 着入

田千五百方核是所條

田千五百方核是所條

但素素未判了之之之之之之之之之之之之之

湖入波皆無之之之之

一 田千五百方核是所 條

一 湖境亦万五千三百四核是所 日

一 川崎千喜九折乃 日

一 樋口百流矢

一 波戸三百流矢

一 稻大小百七折流矢

一 船大小百九折七折 日

一 江戸札建到知田所 流矢

一 遠田番所 折矢

一 月夜番所 日

一 浦番毛 七折 流矢

一 津方所 日

一 善後少包二折 日

一 寺 日

一 日 寺

但表表月是控渡者折部

一 奉守 日

一 社 日

一 寺 日

一 侍家千喜折 日

一 折部人折千八折 日

一 古所 日

一 万姓家三千册儿按六新

口 沙千四百五按五新

口 八百三按五新

流矢
沙千
按

一 侍差送新元潮地 廿七人

口 男 十八人

口 女 九人

一 抄抄人又着差送新元潮地男按六人

口 男 五按五人

口 女 三按三人

一 抄抄抄人差送新元潮地按七人

口 男 八人

口 女 九人

一 所是之看潮地口千百七按五人

口 男 沙千四百五按五人

口 女 沙千四百七人

一 睡喜人八百按五人

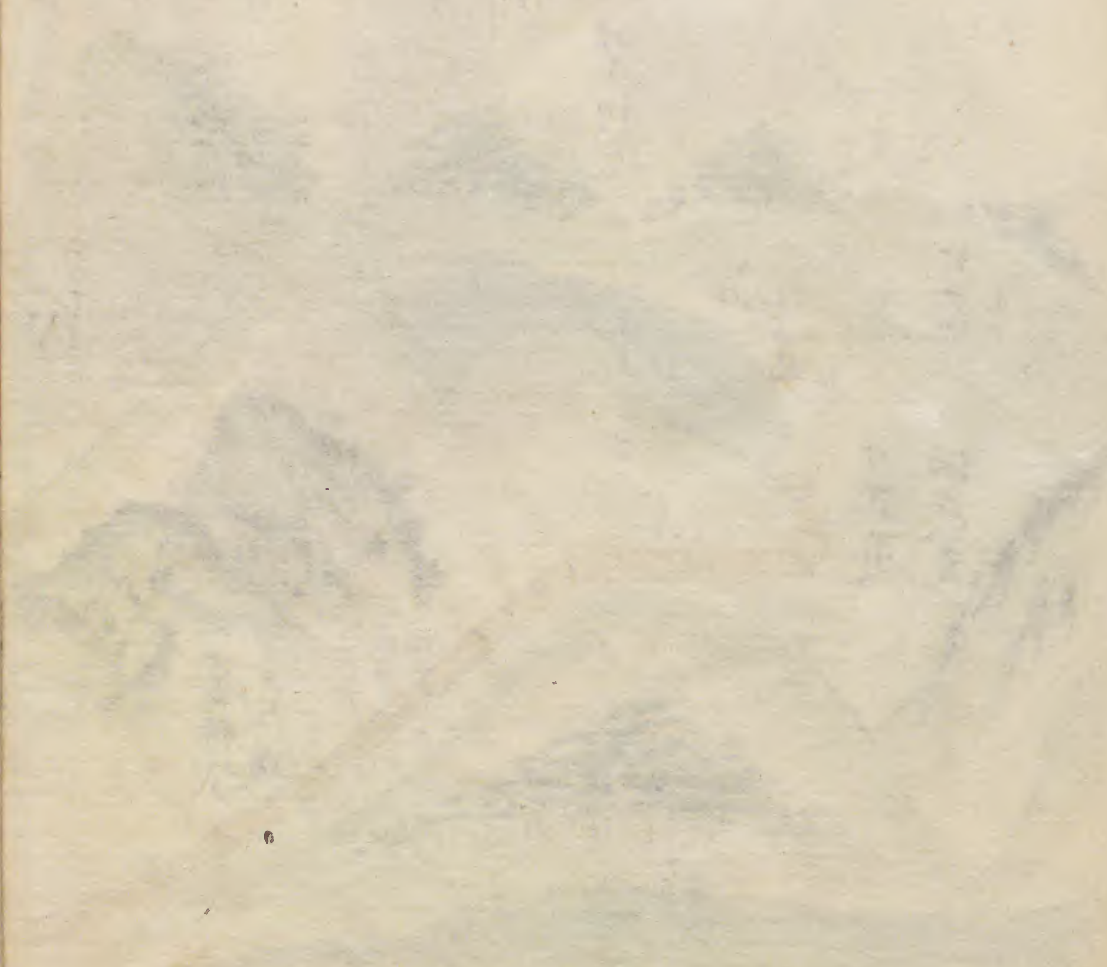
口 男 四百五按五人

口 女 沙千五按五人

一 潮地牛言沙千八百按五人

方之也中书之沙地也之尺

嶋原笛圖



Very faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are difficult to discern but appear to be arranged in vertical columns.

南

南の南にアタリ
十一三
湯の上
三丈半

廿四日
廿五日
廿六日
廿七日
廿八日
廿九日
三十日

湯玉三丈半
上

青見岳
高アリ

廿五日
廿六日
廿七日

ゆん岳石ノ
ホコラアリ

廿五日
廿六日
廿七日

有る湯
廿五日

廿五日
廿六日
廿七日
廿八日
廿九日
三十日

北

青見岳一名重仙岳トモ言
此山乃中葉アタリ何ノ所
引毛道アリ四里半アリ
神代ヨリ八四里ナリ二里
下新道
斗ハ数アリ

此知鏡音アリ

山



島原城

東



有之也之西正月より城より北行又高日月初より高
 之山下河出其上より清波より下より清流より
 少流より河原城橋上ノ町中ノ町西町年所より
 沖船より三日有遊船所用船より清流より清流
 街見人車路より山南方河川村小川村加由加村保
 口村之より村崎原村北の方より江村道より河村東
 古堅村より那村湯江村たより村
 大子より村清波山河より山崎流より山崎流より
 河原より中車 河原より
 一 島原城は月首登九つ之山より山田村より高尾山

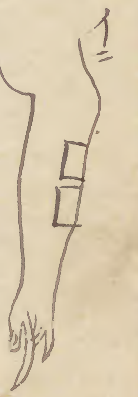
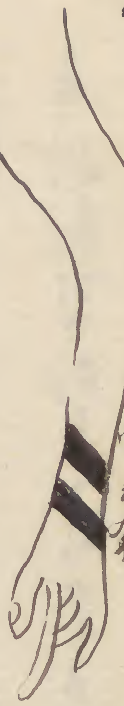


天明八年
通年九月廿七

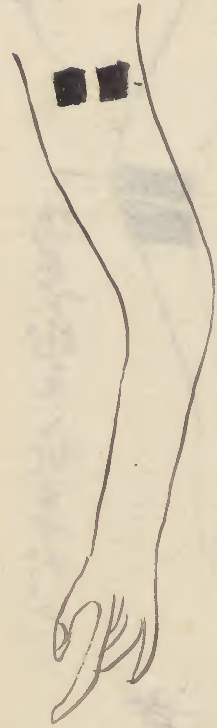
可也中人及後
 是江浦皆流是戸山是之能江領之肥高海士軍の渡
 リアリ
 右之能高海原市領方之國村は戸高は家
 寛政四年四月
 吉田村高海原もさすく確定古也をさすく

長崎

正前より入電のるを分統
性于の方



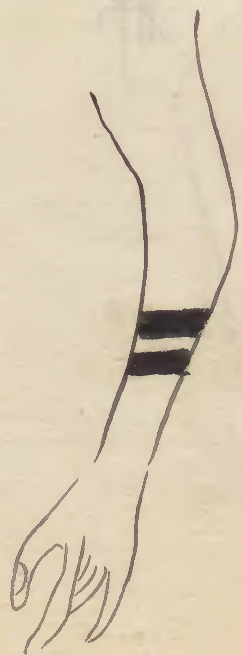
奈良



駿府

寛保三年七月九日
臨所をては是を年々存すは行内能

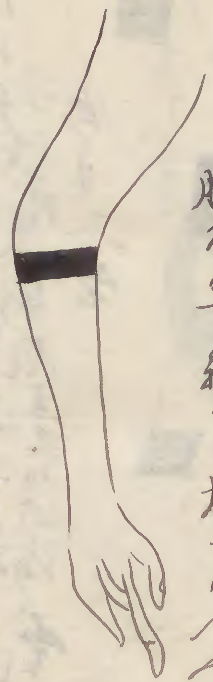
伏見



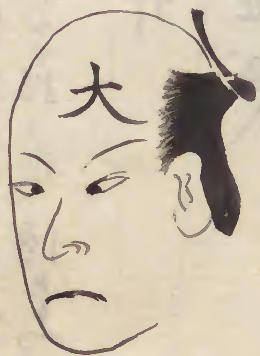
長崎守位西島阿右衛門左衛門守左衛門

堺

腕有のす細下を核一筋入る

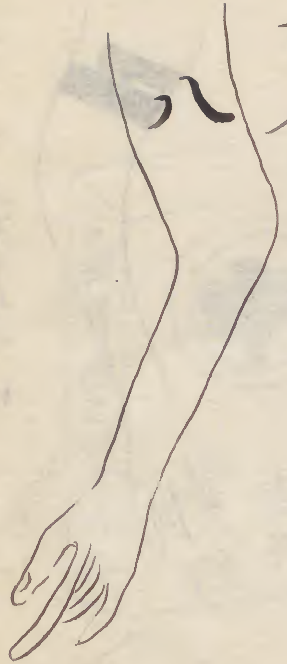


丹波



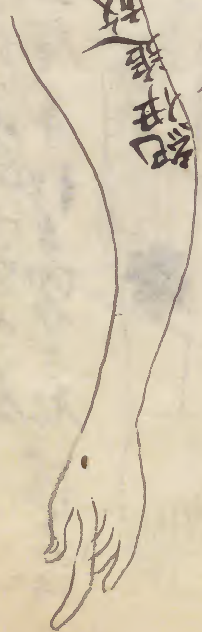
安藝廣島

八

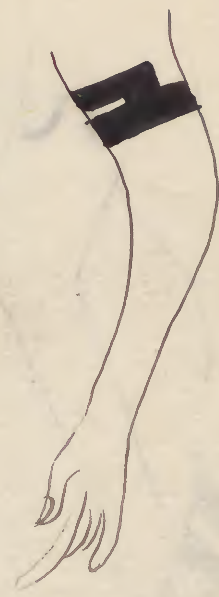


紀州

如野田



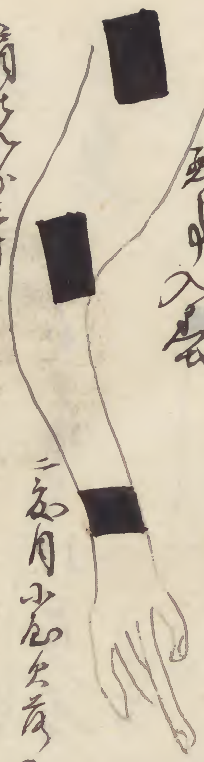
伊奈半左衛門入墨



人足家傳子述主上致書者因内方
只捕多其地十五子方名
寛政三亥年秋年御中書殿上何事候

浮白鳥

寛保三年八月廿九日
捕り方入墨此所
御中入墨



有之入墨
初年入墨入墨長年御中

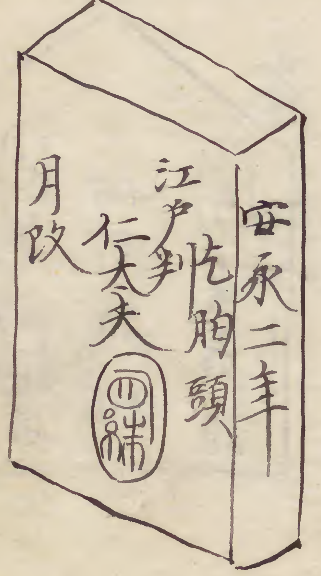
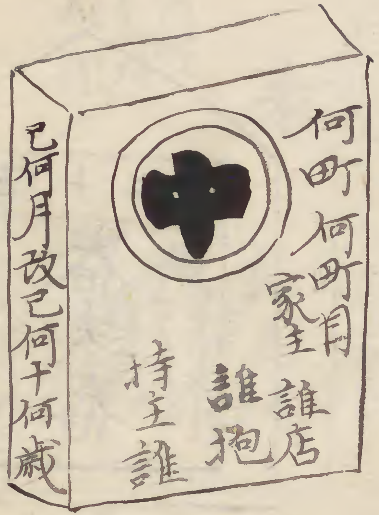
佐渡

廿

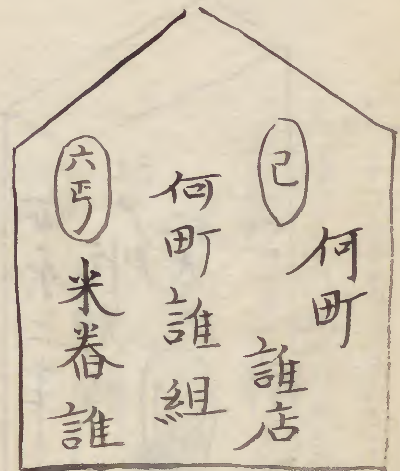
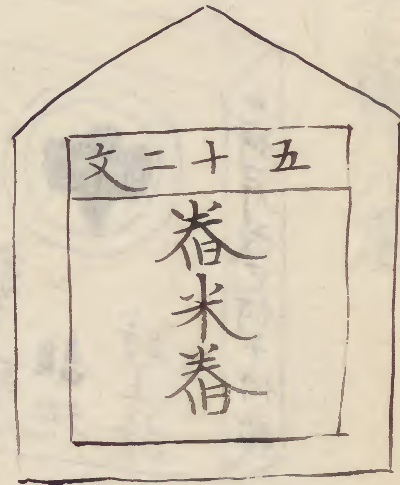
日頃度北より瑞代代在り子代何より月札取
大い地
有之白
白又字
御中入墨
才法御中

改

木札渡人者御札



米春腰札

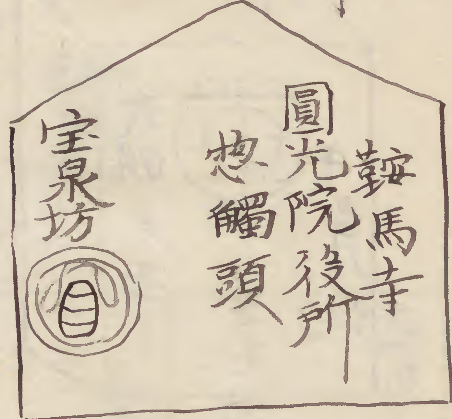


所中米春... 誰店



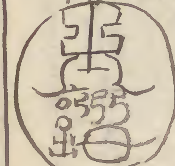
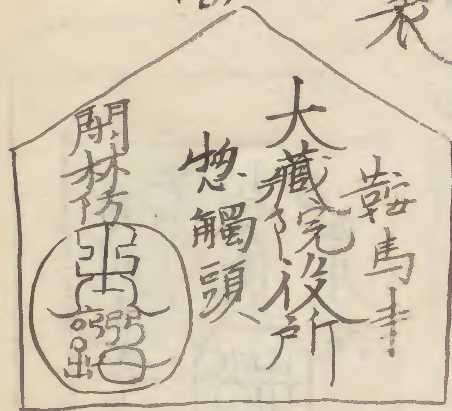
顔人札

宿... 札

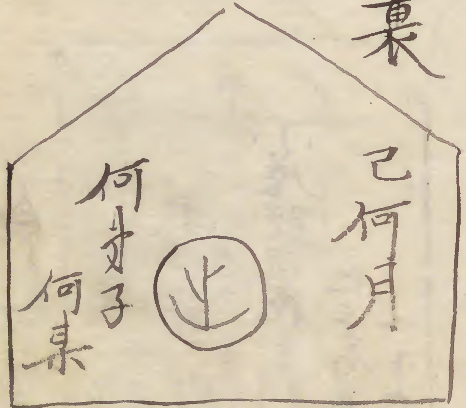
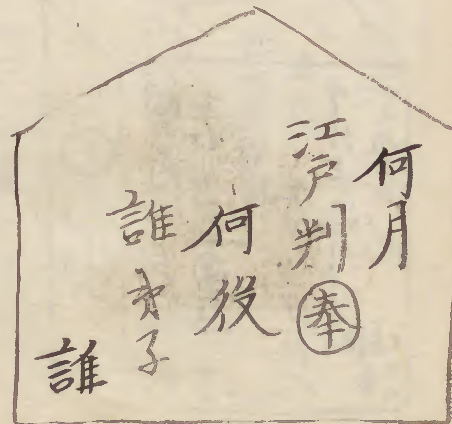


表

水田... 札



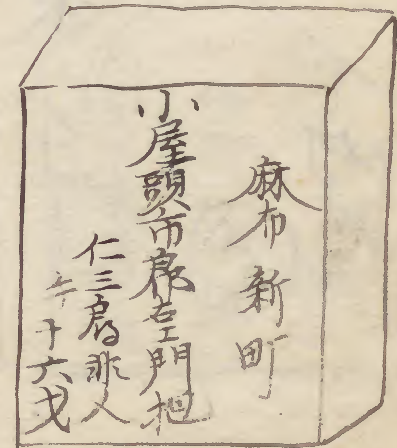
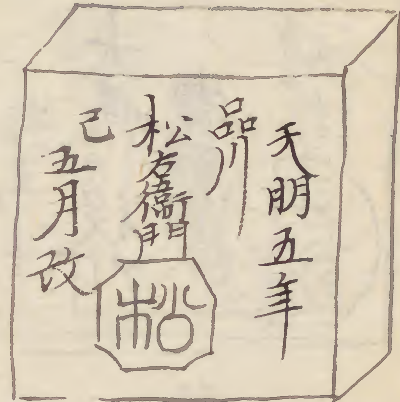
裏



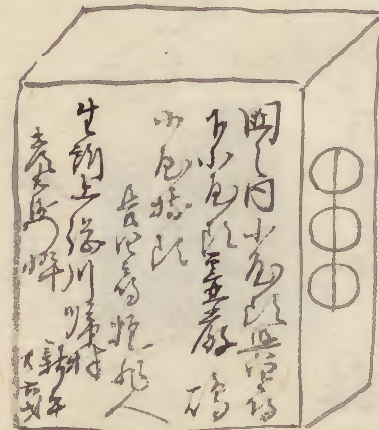
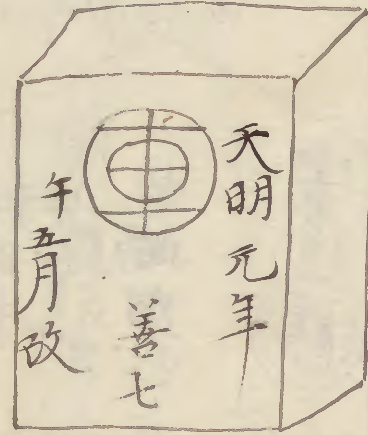
杉並り方
非人札

車寄七右札
札の如く可く

年号遠り札
改り月有
手添り



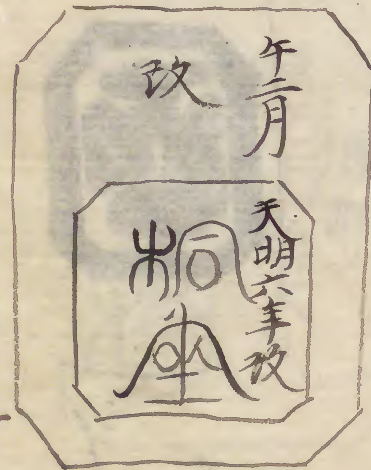
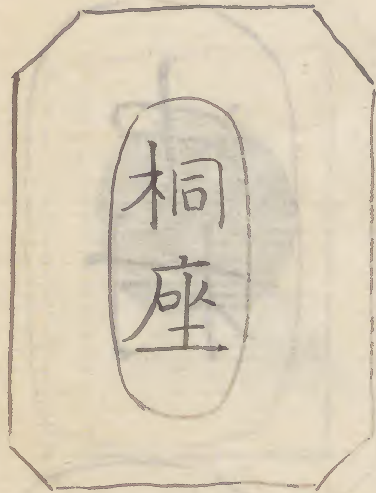
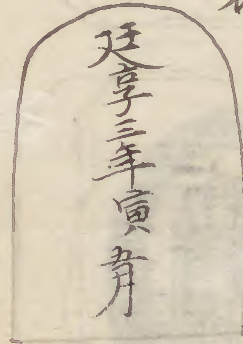
少少



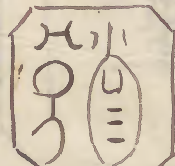
木札




高田小屋頭
仲問生
八五良
丑丑
次良八





故 豊竹座 塚町
 弥助


代 塚町 塚元新大夫
 新右衛門


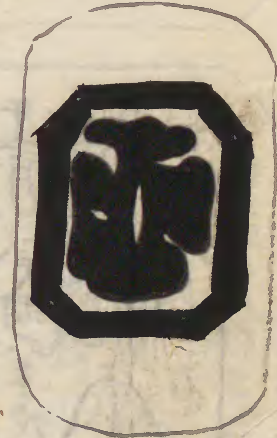
長尾



市村

大芝居
 市村座
 狂言組

中村



印
 好
 儀
 吉

札

結城座



新
操座吉田子藏
始手也所

紙札右同断

可人何之文ハナリナリ判書書有也

公事

一 家賃入

二 控由上

四 控由切

三 控由上

六 控由切

五 控由上

八 控由切

百由上

万由切

千由上

千由上

二十月切

一 店賃清入

三十月切

似之存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

わし切

一 同存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

一 同存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

一 同存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

一 同存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

一 同存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

一 同存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

一 同存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

一 同存月事有海島其十方一物有也其有方上切也

一日新近出入高人家年會

一引負人車運是年修人百領子

一車多人驅運而習少修時日廿四切

但二修月五日海軍十分一覽其幸亦各地方有之

一分數出入抄日有教之則一入御所清心堂之寺

除動年抄分教之戶也

一地之市立出入寺也明後修之也

以唐修人地修人寺之門前掛

一田州古本力為り水海内各寺也

修取之司主と也又七日切又入門前掛

一教知是道是實の出入高家修之月切一修之海方

一熱白方代取也一修之月切一修之海方

一熱白高人房上持之抄也修之海方

一熱白寺社修之者抄也出入高家修之

又修之抄也一修之月切一修之海方

一修之

一全修出入高家修之月切一修之海方

一寬修二修年全修出入高家修之

一修之抄也一修之月切一修之海方

一修之

一修之抄也

一修之抄也

昔々の事何となく思ふ事化る父の事年々
白くせし母の事

明治五年三月通用し真珠城の事日九年
八月二日大風雨三月廿九日大火の事
石橋の事善信の事所々例事之事
明治九年三月

水捕りの様子 白粉の砂
井上の集

心と細く上は細中も何月此田に長
中筋の西の所浦の口月部を
田の傍に沖の類言時坪本と
中筋の玉島船の事此の事十九日
去修の事未だ也

一 田島町字三宿三橋屋町系 湯沢

田子町字三宿屋町系
畑七方三橋屋町系

但某家未列于... 流及列揚...

湖溪皆...

一 溪 方 橋 寺 所 橋 溪

一 湖 塘 水 方 寺 三 方 橋 寺 曰

一 川 塘 寺 音 九 橋 寺 曰

一 柳 口 可 流 寺 橋 溪

一 沙 戶 三 音 橋 寺 橋 溪

一 橋 寺 亦 有 寺 橋 八 寺 曰 橋 溪

一 橋 寺 亦 有 九 橋 寺 曰

一 沙 寺 札 建 寺 曰 四 寺 亦 橋 溪

一 遠 寺 音 新 寺 寺 曰 橋 溪

一 日 燈 寺 音 寺 寺 曰

一 柳 寺 音 七 寺 曰 橋 溪

一 橋 寺 亦 有 寺 寺 曰

一 普 德 寺 亦 有 寺

一 寺 寺 寺 寺

一 日 寺 寺 寺 寺

但某家未列于... 橋 溪

一 橋 寺 亦 有 寺 寺 曰 橋 溪

一 社 四 寺 亦 橋 溪

一 寺在 山寺 流矢

一 侍家 推寺 日

一 持持人 山寺 日

一 山花 山寺 日

一 石母 山寺 山寺 山寺

日 山寺 山寺 山寺

山寺 山寺 山寺

一 侍家 山寺 山寺 山寺

日 山寺 山寺

山寺 山寺

一 持持人 山寺 山寺 山寺

日 山寺 山寺

山寺 山寺

一 山寺 山寺 山寺 山寺

日 山寺 山寺

山寺 山寺

一 山寺 山寺 山寺 山寺

日 山寺 山寺

山寺 山寺

一 山寺 山寺 山寺

一 同世一由牛金堂放乳母登寺
 一 寶德二京牛金堂雷寺入院
 一 文明九丁酉金堂田寂壽七十歲師尋常向柏樹祈
 誓家運興隆

初幸りて是 梅ありしとて 柏樹ありて是 家 妙なり
 此の如く世に於て 實に 柏ありて 祈るに 功あり
 多し 人の 功に 功ありて 功ありて 功ありて 功ありて
 功ありて 功ありて 功ありて 功ありて 功ありて 功ありて

寛政九年
二月

西法寺

一 格 院 公方様

一 二 格 親王家 攝家宮内

一 三 格 攝家門跡 清光寺
 清光寺
 尾張五相 甲府中細川
 尾張五相 山内細川

一 四 格 清光門跡 西条御寺 清光五相
 尾張五相 加賀守

四格

一 右之如身織

喜連川

杉年山重之守

杉年上流神守

杉年肥後守

清花殿上人

杉年凡島守

杉年凡島守

杉年清盛守

井好守

杉年松清守

杉年松清守

杉年精磨守

丑格

一 河川御中守

杉年丹後守

杉年右衛門守

杉年酒造守

藤守和泉守

杉年丹後守

杉年信濃守

杉年老成守

杉年肥前守

杉年去職守

杉年信濃守

杉年信濃守

杉年多郎守

佐竹丸島守

杉年内記守

杉年信濃守

杉年出守

杉年信濃守

杉年信濃守

杉年信濃守

杉年信濃守

杉年去職守

丑格

一 右之如身織

杉年大和守

酒井河内守

本因中務守

幸利守

丹羽守

小島守

杉年信濃守

楠守

戸田守

信濃守

杉年信濃守

杉年大和守

五右衛門守

南守

杉本龍澤寺

杉本細中寺

杉本山幼齋

一分限五方石大石

五石 杉本寺中ノ嫡子同族

七格

八格

一分限五方石五石以上ノ大石并侍従以上ノ官取同格

九格

一分限四万石以上ノ大石并侍側同格

十格

一分限三万石

駿河公代

城之奉行

大寺寺領

山寺寺領

宗姓寺領

大寺月守

江戸所奉行

十一格

一寺院奉行

百人給

御所奉行

寺寺領

新寺奉行

寺領寺領

寺領寺領

大坂所奉行

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

寺領寺領

四月日

中田寺行

二輪寺行

日光寺行

山寺行

少徒行

少徒寺行

二ヶ所寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

一 山寺行

十一格

二 山寺行

三 山寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

寺行

十三格

一 勿論 糸動し 山内 作 上 均 用 仕 也

一 勿中 細 糸 先 年 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿方 能 切 未 切 進 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿夫 手 方 波 下 痛 勿 切 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿海 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 糸 上 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 糸 上 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

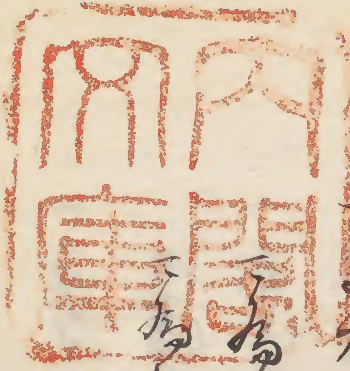
一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也

一 勿 糸 上 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也 糸 内 均 用 仕 也



る吾志の遠き事一今ふた舟でる西征の如き
至幼く國是死体し死する子千世の人種は多し
意はゆき事お知しゆくを敬ゆさきき
胡城にも再征日くる水征海まもんすつよ共
刀切た子する時ハ風城の物も海を食し攻方の世の
人高直剣業し 後征年百年しりおき色相を
本は統うハ 東照宮し 神志とくまき者し
まふ死くも 神目成語いま利世のこり人し
たの成るをば在るま如く國是死体しめ事も成
心の中源を戒しき命し一志をこしこい再ハ

高直く命終しまのまハあも 志は天下人氏
の事一たる命し九天下し半神大わらるる
定め命し事し 必る者也

西征三年十月九日

清運卿

十月十日所中より

仰々

上古の事如國をるを海征し 一軍を好かすは
天下し戦利をほくし 一事者ハ世の人情はさるる
也よ 東照宮 清運卿の北征は七年の事也天運し
時子玉皇元孫御し 威し 志をこし 志をこし 志をこし
定めくを海生し 中一軍 征國の如く 必る者也 例は

安のそふ公卿中、我々の故用由う、年足いの、
新國の節、心金、紙、米、金、尺、為、
紙、為、是、市、中、子、多、利、再、又、新、國、
之、り、ら、る、月、十、日、の、を、以、る、未、然、意、
し、紙、子、の、を、以、る、
國、く、夕、と、迄、も、考、え、
世、の、人、又、推、知、由、此、
甲、子、流、入、也、と、火、号、し、
賦、し、為、子、の、中、一、用、し、
而、九、九、積、金、中、
一、方、紙、而、し、を、紙、

大、歩、紙、減、い、好、
依、り、元、銀、年、中、
空、紙、又、と、物、紙、
東、照、信、し、定、
其、子、造、了、
を、
小、あ、し、
福、く、
一、七、八、
甲、古、

此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ

此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ
此書ハ其ノ書体ハ古クシテ

神者ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ

其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ
其言ハ其言由事、是上如者江戸の如也是是規也よ

小玉刻也道中浦町宿也 諸事終以是日
わし子及中此方かきく時賣歌く物多調考をよ
大由書之記登之 一記の記人し 日記去人
書之志之 二条末少全大坂一政 西少ゆ子飛了
由書代末の既先代り 記中 四月一 記
登之あを田宿二夕下りより由書代かあ子 道中
初書の次人足にえ今くく功者しあを西人足
及中ハ道之具足 拙お 記をゆ子 せ掛はし
下全 二條 大坂 代前 三月丹ふと 前之 道一
下り前 社也 果るハ 大前より 道七 果を 記る

前方子 諸事の 掛紙 社也 所人 とも 海之 形 呪
あつた 河を 舟 遠子 事 記 へ 伴 記 執 記 記 記 記
實 拙 目 掛 記 記 前 方 子 前 方 子 前 方 子
掛 方 子 前 方 子 前 方 子 前 方 子 前 方 子

津軍用

津先勝を 大 自 孫 子 津 吉 の 文 句 八 字 墨 丸
由 白 旗 世 流 ハ 記 子 自 七 流 記 以 故 三 ツ 記
大 序 子 平 全 殿 少 本 骨 子 湯 中 籠 の 半 月
由 記 記 下 記 貴 四 半 二 由 記 記 記 記 記 記
由 希 希 由 記 備 以 故 記 遠 接 中 甲 更 自 科

此の形も符の形代の大先此の形もと云ふ事也
騎馬立の武者備ゆらお平甲亦立念の備貴子
此の形代も下石の形一備も平一列も子と
小十人目下此の武者備道具形代織半臂也
此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一隊亦是意の深持は此の形代織半臂也
此の形代も下石の形一備も平一列も子と

一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と

此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と
一此の形代も下石の形一備も平一列も子と

一乃此書曰半指抽紙しの色面しの平形なり
 一書り此紙白及二書り赤紙の如く三ハ得子赤
 四ハ得子金紋の書り赤の如く濃薄あり今ハ改之
 七赤子白の書りハ紫子の如く九書り浅黄朱の如
 十書り紫子の白十の如く白子朱十一白紙の如く

一小十人抄掛小出指掛子紙しの色面しの
 一書り白紙の如く二書り朱紙の如く三書り白紙の如く
 四書り浅黄朱の如く五書り赤の如く六書り白紙の如く七書り浅黄朱の如く
 一西書り此紙白及二書り赤紙の如く三書り白紙の如く

一西書り此紙一書り二紙の如く三書り赤の如く
 一西の如く四書り赤の如く五書り赤の如く六書り赤の如く七書り赤の如く八書り赤の如く九書り赤の如く十書り赤の如く

此の如く二書り一割

此百張 小十人抄紙
 四百張 西の如く
 五百張 西の如く
 七百張 西の如く

仰助百俵之材料一位殊月光院攝門人少也

千俵 此書者由月身也使者由院匠少人書院
此書院書院匠少性院匠少人書院

千五百俵 此持自院匠少人書院

千八百俵 此書院匠書院匠少人書院

二千俵 此書院匠書院匠少人書院

三千俵 此書院匠書院匠少人書院

四千俵 此書院匠書院匠少人書院

五千俵 此書院匠書院匠少人書院

有之庭也 庭者其言不之方也

仰尋考 知恩院

右記立之年号用山之天箭

用山之津土宗用院法上人深定大和尚

勅遣圓光大僧再之 賜号奉漸慧成大師

智行兼備也 諸宗高祖之戒師也

天皇戒師之德 勅書法上人仍侍傳也

今之知恩院坊内之法上人日持三藏承安五年春

為子慶山之尾香瓜立物由西山廣孝子位者

是申子大僧長也 寺之師也 寺之傳也

一 是之能超卷上人 以任職之 以寺之流新條家條
寺之与也 任其車

一 依更 以碑之言并之 高惠之 以地可也 寺所
也下流也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車
一 摩也 以流二条 以在也 以長安月極也 任其車

東約也志之有力策也紙念令系 内府乃能之也
高方紙之志人必本 下遺須哉 入後仕公等名久
如家行德之 高指現也方如氣也信也之但能之常名久
青蓮院宮也所能也之長也所也指也門也入也等糾會
之上也所 諸家方信正院家久也指也本以上也等糾會
上之也指仕方物之知也此之仰也寺候指也 制也也
一宗之 修院親有仕有也

一慶長二年九月國東 淨土高院權林院寺院之是乃
法信紙也名一宿流之案 淨判拍也也也也
國東 淨土高院法信之院院本寺知也院也

お定降、名ありて遠代也

九月廿日 内大臣 清孝判

院權林

世に権林大住持寺権林、事十八院権林、寺院
指也寺院案也の寺候指也所等直蓮堂福寺
川城蓮輝寺寺斗方傳也院中院住十八院権林
所入慶長七年西建也 任也事

一元和元年七月淨土高院諸法信三十五條力
此判知也院指上寺 高寺也 高寺也 高寺也 高寺也
和二年條七 知也院也法也定也下也也 高寺也 高寺也

此因修入法塔林以下一高之諸寺此塔修之修後
此塔法身如中至如左

十一除

津市高諸法後

一知恩院寺 立高宮門西門關之別在定者不可

混親寺 家引通寺佛本未定執任寺如左知恩院寺

十一除

轉坊如十之入為修塔之自為之立抄書事

一西京都 中撰書量之仁古人為法者二法此法

為之入之立恩以負 編願事 唯今高上未言寺修志中其文以
于亦同未代信為其知也

寺三之此因修不入法塔林及諸寺此一高之修後

此法修之入之修

但此此个條之條寺之方之入如也 知恩院一法之

中色之未為知事如門中之此其の如也

慶應十年二月知恩院住持滿堂知恩院境内及

本堂諸寺此建之入如左至如左

大寺西棟 此房 公戶棟 此院寺修仕之良

此此是如左如左

知恩院境内

法何事也

轉七寺

大寺古寺之修建 上開新之修之 修之修之

一甲中此知恩院寺又修府為自如知入送御抄錄

一 徳久の柳灯の光が案の弱流

一 海河未急なる 以上使三好侍中と後田上把成

一 上意留侍は仕給ふ 地仕はし

一 一登地し日知院 地仕はし侍

一 上意し中白流し 地仕はし侍

一 一水原 以上使在し方

一 水原河原 水原右と下り 湯巻と侍

一 四侍獨礼 水原之湯巻と上意と

一 仕事連 上使と下り 上意と

一 地仕の事

一 一海河未急なる 以上使三好侍中と後田上把成

江戸集

一 西久保天徳寺 宿坊と文達と

一 江戸集 宿坊と文達と

一 一依 上意土屋と地仕と

一 一依 上意青山園寺と地仕と

一 一登地 地仕と

一 一登地 地仕と

一 一登地 地仕と

一 一登地 地仕と

一 佛堂遺化是次慈覺源正
大融法樣 具在
少信同生實大壽寺新化
任可事

右為代不办 言上書以

一 源正元次雄卷靈巖寺 此列深川靈巖寺任持
先任源正中靈巖寺任持未幸元未終上任者
言上書以任持如左

今任言上上代任持

知息院任持任持靈巖上人本未元忍也言以
任自條之流也 此等者為卷湖也上人任持上上
世亦余人所為 任持人每月通以年言流也

源院言上上代任持

忠岸院

源案判

九勝院

九傳判

德林院

源廓判

信重院

宗明判

大都寺

相言判

長徳寺
規卷判

津島寺

天卷判

津島寺

題卷判

地子 律可

一 四年六月二十日 雄春靈巖 登
一 一 是 寺 院 公 方 様 出 律 内 三 卷 月 之 為

石 寺 院 上 卷 知 恩 院 經 藏 出 律 可 別 卷 律

一 寺 院 中 以 用 書 之 以 方 以 五 卷 以 律 可 下 退 出 而 此 向
寺 院 中 寺 院 中 以 院 約 以 下 以 用 書 之 以 方 以 律 可 志 經 為

一 唯 今 靈 巖 寺 雄 春 靈 巖 知 恩 院 律 藏 出

律 可 一 卷 之 律 院 經 藏 出 律 可 一 卷 之 律 院 經 藏 出

一 一 院 上 使 時 律 子 律 可 律 可 律 可 律 可 律 可 律 可

時 律 二 卷 律 可

一 通 中 人 子 律 可 律 可 律 可 律 可

一 通 中 人 子 律 可 律 可 律 可 律 可

聖 年 律 月 律 可 律 可

一 江 府 律 可 律 可 上 使 律 可 律 可

一 律 院 三 十 帖 律 可 律 可 律 可 律 可 律 可 律 可

一 律 院 律 可 律 可 律 可 律 可 律 可 律 可 律 可

如光親王 任中書

一 日代土月親王等親而如光院之号以修後云

一 任中書下云

一 延元二年春院為寺親之如親之在院后云 任中

此与後任親 云上等 院后之任乃遠之其後

清濟之古任強家 以此世之海之如光院後任

坊上寺事文 撰等事之信言上之任系云

任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

如光親王 任中書事

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

一 任中書事 院后之明寺任通院日親也其事云

少子源好者上之入知恩院之格別（此寺之山元之方）

山月之在源好者之格別（河内守之）

上意之在源好者之格別（此寺之山元之方）

少子源好者之格別（此寺之山元之方）

少子源好者之格別（此寺之山元之方）

入院之格別（此寺之山元之方）

山月之在源好者之格別（此寺之山元之方）

山月之在源好者之格別（此寺之山元之方）

一松平山元之祖 親氏公津素島別 松平高月院

山月之在源好者之格別（此寺之山元之方）

高月院奉辨 芳樹院殿後山德藏院寺次之

春親公文明四辰年九月廿三日以卒去奉辨

良祥院殿秀岸祐金吾土吉藤高月院于海天又

十四巳年 知恩院二十二世 越后上人世院上院

一松平山元之信光公知恩院二十二世 大倉摩三上人

津守依立之為津善提而春洲岩津信光明寺山建

立長寺二申年七月廿二日津守去奉辨

崇岳院殿月堂信光大禪定拜奉辨信光明寺

于海明應三丑年正月知恩院二十二世 越后上人

山元之在源好者之格別（此寺之山元之方）

以代之樣以位牌以每五在之無 以之樣方又八

以中才抄以透體以為入其之亦之半

一摩色八九年 幸喜以建去則幸喜正角以河海信文

殿用山法然上人真影西潤淨地子

柱親樣以本帝尊影是久為西國清淨以信其

上之身之 以宋中信其以 侍世如樣尊影在

為次之 右邊院樣 以本帝尊影以每二處

右 淨三方樣淨厨子入

一系之長十以五五年 方丈諸堂以建五

一大方丈佛間中尊阿彌陀如來立像五河海作

右之方

柱親樣以位牌以每五

右之方

右邊院樣以位牌以每五

丈之

淨信院樣之之 以代之 以位牌以每五

集會堂佛壇中尊阿彌陀如來三尊

寶臺院樣御位牌以安置

天崇院樣御位牌以安置

淨德院樣御位牌以安置

九之方

大猷院様御影御繪像

画工

狩野探幽

右之方

嚴有院様御影御繪像

画工

狩野永真

右 為御影有京初以所司内存和系古在御志成
以在古 由古影以為 本位也 以在古也
以位佛之上集會堂佛壇在古 以高古也 作有
古以寺行中以位古也為入

此古也 古影之牌以高古也 以古也 古也
古也 古也 古也 古也 古也 古也 古也 古也

一 慶長七壬寅年八月廿九日

柱礎様尊母云伏見古

少地以迦古也為地

上意以遠籠子也壽知息

院之系以 以有奉葬系上上奉 踰

德茶院殿 容譽光新知香大禪定尼

御影以位牌 本堂 西頭彌壇上御安置此古 元和五年

柱現様依 以遠言 江府傳也院古 以遠言 以院踰

以留奉 踰

傳也院殿 以中氣位位牌知也此古也 古也

一 柱現様以君様 初乃山十八亥 未年比系依古也古也

氏古及瓦後文孫年中 池田三也古也 狩野探幽 古也

此多子長年未後掃磨國 柱礎樣白 為對狀

二條山佛一 以上佛堂之山房等之山長生之山子元

和元元年二月十日二條院 山佛堂之山

柱礎樣 上三之知恩院 山佛堂之山

奉歸 良正院殿 隆聖智元慶安大祥定元

山氣山位牌方丈 山安靈山在信山上之山

一月四年山子息松年宮内浦宰相忠雄殿

台德院殿 良正院殿 山氣山位牌 山安靈

恩院山内一院山建之山房等之山

山安靈山之別院 山内一院山建之山房良正院殿

山位牌 山建之山房等之山 山安靈山之山 山安靈山之山 山安靈山之山

一山位牌殿 山右塔上之山子息松年寺神主殿之山

一寶曆八寅年九月五日 靈芝院帝中子定女

八子宮吉子二岳内親王御壽四拾五知恩院 山安靈

奉歸 山琳院殿 山内親王明譽白真慧照大禪

有章院樣 御臺樣 御結油 山安靈

御位牌 大方丈 山安置御寶塔東山上奉築山

御尋書

右山御廟山位牌堂 山造立之山安靈

且御廟位牌堂中依後志從
公儀以 作身也

一知恩院寺像夫 權現様境内奉安諸尊

方丈二庫裏大庫裏御建立以下是

台徳院様三門經所建立以下是

大猷院様慶長八年同十五年造以下是

堂諸堂方丈不殘寛永十年正月焼夫仕化故

寛永十年二月同十七年造唯今之本堂諸堂方

丈御再建立以下置以下 同十七年

權現様御宮新造以下 仕化

一知恩院一字 尊影尊牌御安置之以下是

本堂

權現様西國御鎮護 尊影御安置

台徳院様尊影御安置

傳通院様尊影御安置

集會堂佛間

大猷院様尊影御安置

巖有院様尊影御安置

寶臺院様御位牌御安置

天崇院様御位牌御安置

御繪像

御繪像

台徳院様以下是

台徳院様以下是

台徳院様以下是

淨德院樣御位牌御安置

常憲院樣御長男

大方丈佛間

權現樣御位牌御安置
台德院樣御位牌御安置
大猷院樣御位牌御安置
嚴有院樣御位牌御安置
常憲院樣御位牌御安置
文照院樣御位牌御安置
有章院樣御位牌御安置
有德院樣御位牌御安置

淳信院樣御位牌御安置
清揚院樣御位牌御安置
天英院樣御位牌御安置
淨琳院樣御位牌御安置

御神殿

持現樣御神影御鎮座
台德院樣尊影御安置

居間佛壇

市之終院 親氏公至廣志公市八代
御位牌御安置列石 持現樣 上之石以每是

勢玉堂

宗源院様申位牌 以安奉

台御流極少卷様

天樹流極少位牌 以安奉

各御流極少卷様
東極流極少卷様

桂昌流極少位牌 以安奉

幸富院極少卷様

小庫裏

右尊靈様方御供所

大庫裏

衆僧食堂

右之邊知恩院 一字 寺氣之殿 寺申安奉

一 是年中内建志 奉也 此流極少卷様

風雨之流極少卷様 申安奉九年 控地極少卷様

可為 修行方之流極少卷様 申安奉九年 控地極少卷様

方之流極少卷様 申安奉九年 控地極少卷様

方之子孫如子長年中用事 申安奉九年 控地極少卷様

以奉書 又以此流極少卷様 申安奉九年 控地極少卷様

此下自書流極少卷様

一如上之流極少卷様 申安奉九年 控地極少卷様

合之流極少卷様 申安奉九年 控地極少卷様

此下自書

以位牌 奉抄亦流極少卷様

之流極少卷様 申安奉九年 控地極少卷様

一 知恩院成、表門喜門庫喜門三月廿五日、
嘗、清構、江、泥、垂、幣、至、奉、方、丈、法、堂、法、堂、
後、以、在、寺、内、
後、以、在、寺、内、
後、以、在、寺、内、

一 知恩院、成、慶、長、八、年、分、十、五、年、迄、
華、方、丈、一、字、以、建、立、
於、現、樣、上、意、也、
下、至、山、且、晴、之、風、雨、之、良、也、
中、御、方、丈、
身、指、
上、意、
上、意、
上、意、

上、意、也、
下、至、山、且、晴、之、風、雨、之、良、也、
中、御、方、丈、
身、指、
上、意、
上、意、
上、意、

一 權現様、
多、德、院、様、
初、三、月、
為、
一、
大、敵、院、様、
作、付、

一 權現様、
多、德、院、様、
初、三、月、
為、
一、
大、敵、院、様、
作、付、

一 慶、長、十、五、年、分、二、十、五、年、迄、
大、敵、院、様、
作、付、

乃大破車 以死

沙舟舟

渡 公儀御寄附之西上車右港口多細子

寺乃修了多之如

一 渡 控地極了願之而道具高且

傳通院様市道之 西重永十一年正月九日修了

此乃 寺修了了人

山條月 寺修了

寺願之 寺判物

一 西國寺乃如市如 如死

寺乃修了願以乃後寺別表 寺内出遣之如
信長弘也 寺乃修了願之 家乃為討集以
孫子乃建用乃其 孫乃乃乃乃乃乃乃乃乃
此後修了願寺乃 何如乃乃乃乃乃乃乃乃乃
上乃乃乃乃乃乃 寺修了願

月廿下

知恩院

寺乃修了願之 寺乃修了願之 寺乃修了願之
寺乃修了願之 寺乃修了願之 寺乃修了願之
寺乃修了願之 寺乃修了願之 寺乃修了願之
寺乃修了願之 寺乃修了願之 寺乃修了願之

九月二日

陸氏様

清右衛門守判

知恩院

為平身之志願以仕所請之施子是於原
二十所賜施之御所也御所為御所之御所

左記此様

二月八日

清右衛門守判

知恩院

為平身之志願以仕所請之施子是於原十所送施
之御所也御所為御所之御所

左記此様

五月三日

清右衛門守判

地倉上人

大坊卷之八武州地倉上人御所之御所御所之御所

以上家記為記 上意之知恩院御所

御所後之御所 御所長御所 御所之御所御所

已奉子御所御所御所御所

為平身之志願以仕所請之施子是於原十所

御所御所御所御所御所御所御所御所御所

大御所様

二月廿八日

清右衛門守判

雄養上人

為寺之湯之新律供所經後子一毫形原于時之牙
飲之其為酒并續得子一速之清之

大敵院様

三月廿日

師為寺清書判

周養上人

右之通例年 清書判兼供所經後子一毫形原于時之牙
清書判兼供所經後子一毫形原于時之牙
清書判兼供所經後子一毫形原于時之牙
清書判兼供所經後子一毫形原于時之牙
清書判兼供所經後子一毫形原于時之牙

師奉書乃如不為所明之時後於願也 作年

一勅書法然上人行收繪詞傳四拾八軸 画工 土佐吉光

右之 伏見院 後伏見院 海二條院震筆

書蓮院 一品 尊圓親王御筆 于方公卿 方筆

大 寺繪詞傳寶永八年三月京都所出是代也 和年

此何寺也 作後之法然上人繪詞傳四拾八軸 和年

上繪之可也 和年 和年 和年 和年 和年 和年 和年 和年

中宿次人足甲人清書判兼供所經後子一毫形原于時之牙

元 和年 下向付張

正德二年辰土月廿七日首寫東寺經年乃不嘉川

一 系印可儀

淨土法樣為 淨土法料每劫初淨土成百四波也

高約 東山 淨土寺院

一 高四指五石九年余 新善光寺

内

一 坑七石九年余 山崎町部 西院村内

一 臥石 日國寺部 田中村内

一 邱坑石九年余 日國寺部 有川村内

合四坑石九年余

一 高三拾壹石 日新 本覺寺

一 高七石九年余

日國寺部 深田村内 日國寺部 恩寺

一 高四石

日國寺部 西院村内 日國寺部 承養寺

一 高古石

日國寺部 寺所一條 淨教寺

一 高三石

日國寺部 東土河村内 淨福寺

一 高三石

日國寺部 寺所一條 勝園寺

内

一八斗四升

日國寺部

以好内

一斗石古井

日國寺部

王生村内

一斗石古井

日國寺部

西院村内

合三石

二條川東

見性寺

一斗石古井

内

一拾四石古井

日國寺部

西院村内

一斗石古井

日國寺部

王生村内

合拾七石

享保十三年戊申九月二日宜未刻大風雨言向者川下谷浅草本所是水由事云云余武士也海所家流流字来也大水也言暖水也云云此河川物指言有云由國橋有水道橋云云

日三言

去二言小石川小日向云云是水也橋本上守云云此以周之水也十言云云此也

寛保三年壬戌八月十日松平左近将監伊豫守云云此寺所稱也法云云云

世傳云云此物在集本上云云云云

牛志之 每河原橋中 橋新 志之 橋新 志之 橋新
橋新 田川 志之 和泉橋 新橋 志之 橋新 志之 橋新
上水 柳 志之 流 志之 志之 柳 志之 志之 橋新 志之 橋新
阿 志之 志之 志之 志之 志之 志之 志之 志之 志之 志之
橋 志之 志之 志之 志之 志之 志之 志之 志之 志之 志之

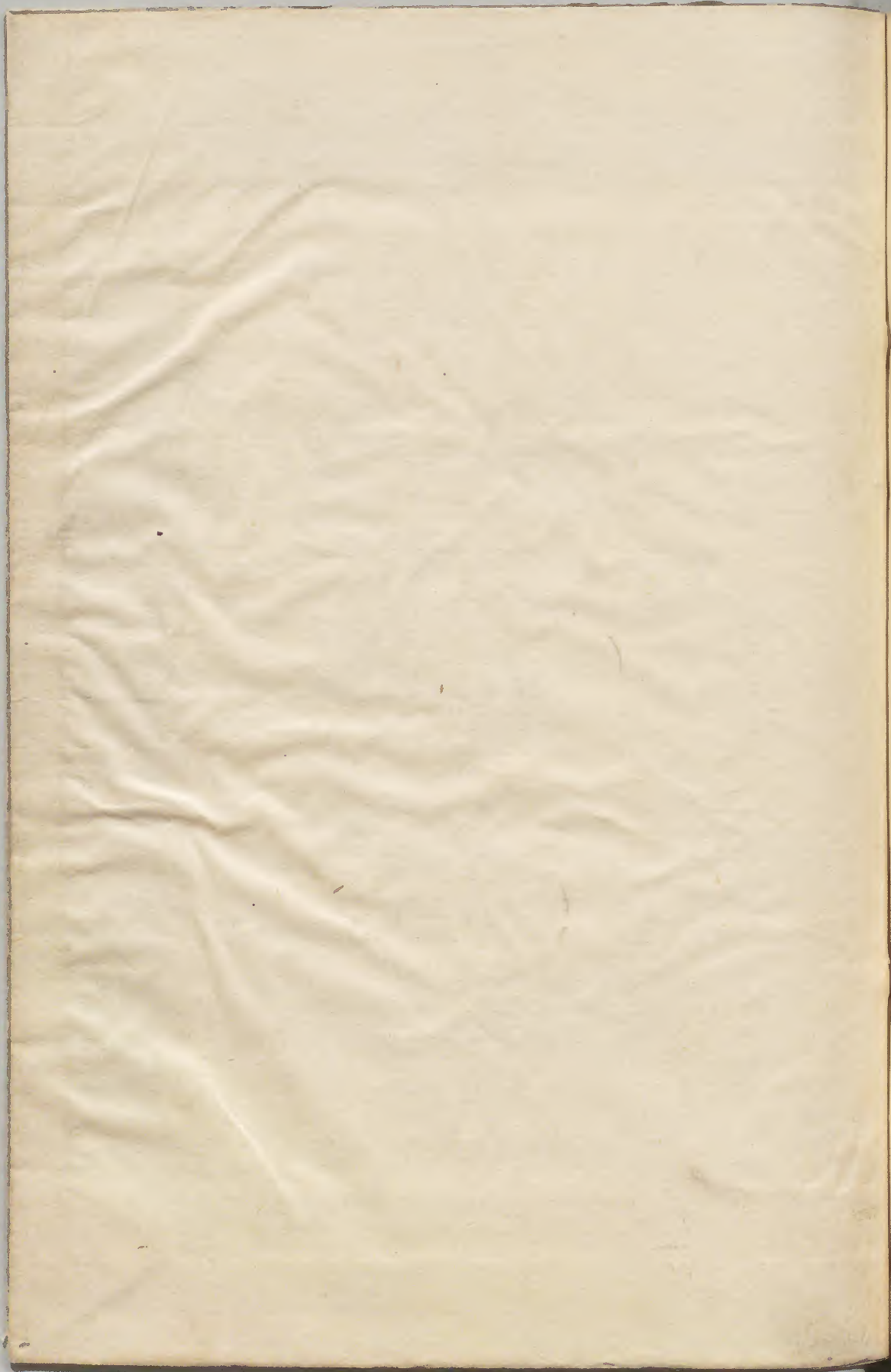
寛延二年八月吉日朝方大雨風方曾之方志之志之
押之新之志之押之志之志之 此月志之志之志之志之

年更志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之
志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之
志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之
志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之志之

志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之
志之志之 志之志之 志之志之 志之志之 志之志之

所々々々々々々々々々水也斗改代所々々々々々々々々々川
所々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
大余々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
水戸殿百方々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
遠々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
江戸橋々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
多々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
折舟内々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
流々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

大々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
元々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
阿部百々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
所々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
天部々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
所々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
内務正々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
信濃々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
小石川橋々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々



Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, covering the right page. The text is faint and difficult to read due to fading and bleed-through from the reverse side. It appears to be a continuous passage of text, possibly a letter or a journal entry.

